

長崎大学病院研修医における喫煙への意識の検討 —他大学卒業研修医との比較—

今井 諒¹、河野哲也²

1. 長崎大学病院 医療教育開発センター、2. 長崎大学病院 喫煙問題対策センター

長崎大学病院の研修医を対象に喫煙に関する意識調査を行った。長崎大学卒業生は他大学卒業生に比べて、喫煙に関してより適切な意識を持っていることが示され、医学生時代の防煙教育の重要性が示唆された。

キーワード：研修医、ニコチン依存症に関する教育、出身大学、加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (KTSND)

はじめに

長崎大学病院は長崎県下唯一の大学病院であり、本学卒業生以外にも多くの大学からの研修医を受け入れている。本学は病院も含めて敷地内全面禁煙である。しかし、本学ではニコチン依存症 (Nicotine Dependency：以下ND) は医学生の系統講義科目に取り入れられていないこともあり、職員も学生も喫煙に対する問題意識が低いのが現状である。喫煙問題に対する正しい知識を持った医師の養成を目指し、呼吸器内科の病室実習の際に、約50分間と短時間ではあるが日本禁煙学会専門医によるND教育を平成23年から自主的に行っている。本研究は、当院研修医のNDに対する意識を、出身大学 (長崎大学卒業か否か) を含めて評価し、本学病室実習におけるND教育の成果を検討することを目的とした。

対象と方法

平成27年7月の時点で長崎大学病院医療教育開発センターに所属し、長崎大学病院で研修を行っている研修医 (1、2年次) 全員を対象とした。喫煙歴、加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (Kano Test for

Social Nicotine dependence、以下：KTSND) について無記名で回答を要請し、その内容を検討した。倫理面の配慮として、本研究結果を学会発表し論文化することについて、口頭および文書で説明、書面による同意を別紙で得たうえで、無記名で回答を得ている。

長崎大学群と他大学群の統計学的有意差の検討には、JMP9 (Statistical Discovery, SAS Institute, Cary, NC, USA) を用いてMann-WhitneyのU検定を行った。

結果

当院に在籍する41名の研修医全員より (平均年齢：26.2±2.1歳) 書面で同意のうえ、同意書とは別紙で、無記名で回答を得た。長崎大学卒業が27名 (男性：18名、女性：9名)、長崎大学以外の医学部卒業が14名 (男性：8名、女性：6名) であった。これまでに全く1度も喫煙経験のない者は32名 (全研修医の78%) で、現喫煙者は男性医師2名のみ (うち、長崎大学卒業1名) であった。喫煙者2名のKTSNDは長崎大学卒業生が10点で、他大学卒業生が26点であった。喫煙者は非喫煙者に比べKTSND得点が有意に高値であることが知られている¹⁾。本研究では各群それぞれ1名の喫煙者を除き、社会的ニコチン依存度を検討した。

喫煙者2名を除く研修医のKTSND得点は全体が8.8±4.0 (平均値±標準偏差) 点であった。出身大学別にみると、長崎大学卒業：6.2±2.1点、他大学卒業：13.9±5.0点であり、有意差を認めていた (図

連絡先

〒852-8501

長崎市坂本1-7-1

長崎大学病院喫煙問題対策センター 河野哲也

TEL: 095-819-7274 (長崎大学病院第二内科受付)

FAX: 095-849-7285 (長崎大学病院第二内科受付)

e-mail: midukipapa2002@yahoo.co.jp

受付日 2017年6月15日 採用日 2017年10月25日

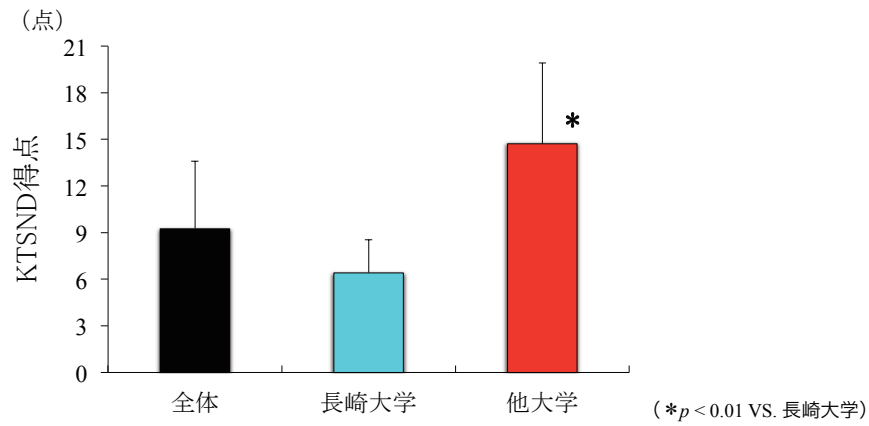


図1 出身大学別みたKTSND平均得点

KTSND平均得点(±標準偏差)を示す。卒業大学別にみると、長崎大学卒業群の方が他大学群に比べ有意にKTSND得点が低いことが示された($p < 0.01$)。

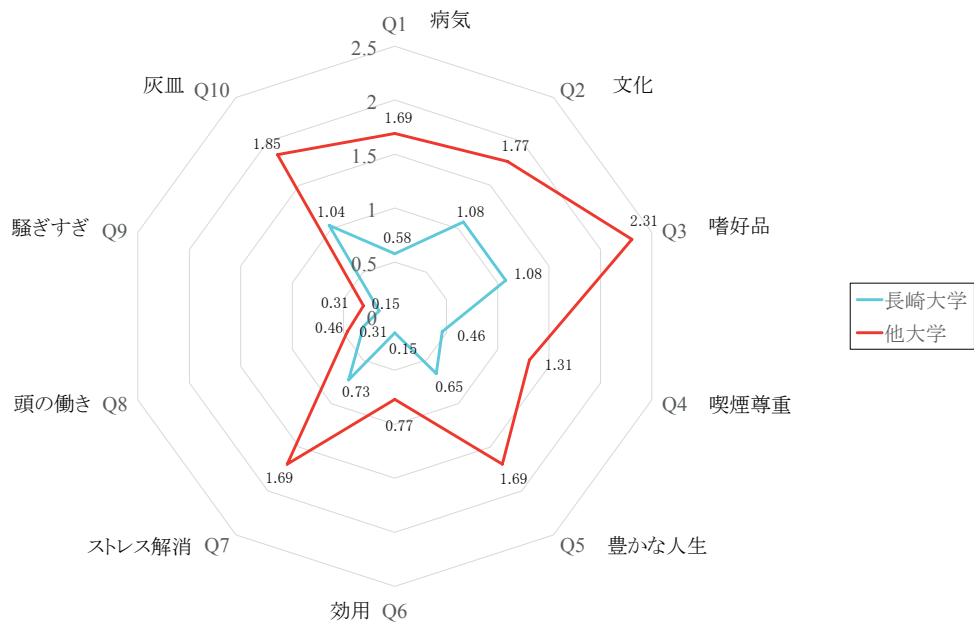


図2 出身大学別みたKTSND設問ごとの平均得点

KTSNDの設問ごとの平均得点を示す。それぞれの設問の平均点を示し、数値をレーダーグラフ化して視覚的に比較している。長崎大学卒業群(青線)は、全ての設問において他大学卒業群(赤線)よりも平均得点が低く、質問8以外のすべての質問で有意差を認めていた($p < 0.05$)。

1)。他大学卒業医師の平均得点は基準範囲の9点を上回っていた。KTSNDが10点以上であったのは、本学卒業医師：30.8%に対して、他大学卒業医師：84.6%であった。

KTSNDの質問ごとに比較すると、質問8以外のすべての質問で有意差を認め($p < 0.05$)、長崎大学卒業群が、より低い社会的ニコチン依存度を示していた(図2)。KTSNDが0点満点の者(5名)は長崎大学卒業生のみであった。

考察

医師として、“自身が喫煙しないこと”は最低条件

であるが、我が国の調査では「医師の喫煙率」は男性では12.5%、女性では2.9%となっている²⁾。重要なことは“喫煙を開始させない”、“最初の1本を吸う気にさせない”ための防煙教育であり、これは医学教育においても重要なことである。最低限喫煙しないことに加えて、喫煙自体がNDという疾患であることへの理解は医学教育において必須である。KTSND得点が低いことは社会的ニコチン依存度が低いことを示す¹⁾。本研究では同じ施設の研修医でも卒業大学が本学か否かによりKTSND得点には明らかな差を認め、喫煙問題への意識(社会的ニコチン依存度)の差が示された(図1)。卒業大学によらず、男女間

でのKTSND得点の有意差は認めなかった(data not shown)。他大学でNDに関しての教育を受けた経験の有無は不明であるが、本学卒業生が他大学出身者に比べて喫煙問題に対する意識が高い(社会的ニコチン依存度が低い)理由の一つとして、医学生時代の病室実習の際に行っているND講義が奏功しているものと思われた。実際に調査の際の自由記載欄にも当時のND教育担当教官の名前を出して、教育内容を印象的に覚えているとのコメントが多かった。

設問ごとに平均得点を比較すると、全ての設問において長崎大学卒業群で社会的ニコチン依存度が低かった(図2)。質問1:喫煙すること自体が病気である、質問3:タバコは嗜好品である、質問5:喫煙によって人生が豊かになる人もいる、質問7:喫煙はストレス解消になる、質問10:灰皿があれば吸っている、の5問では、特に意識の差が大きく認められた。すなわち、他大学卒業生は、NDを疾患であると認識できておらず、タバコをストレス解消のための嗜好品であると考えており、受動喫煙への意識も低いことが示された。病室実習でのND教育前に施行のKTSNDでは、長崎大学の医学生も社会的ニコチン依存度は高かった(data not shown)。しかし、研修医になった時にはNDが疾患であると認識ができており、これは学生時代のND教育の効果である可能性が考えられた。斎藤らの薬学部学生を対象にした

研究によると、KTSND得点には教育の有無により差が出なかったことを報告している¹⁾。本研究での長崎大学学生に対するND教育は、病室実習の際に少人数のグループに対して行われており、一人の講師が100人以上の学生に対して行う通常のスタイルの講義ではなかったことも奏功し、効果を示しているのかもしれない。医学生時代にたとえ短時間でも適切な教育を行えば、医師になった際の喫煙への認知の歪みは矯正可能であることが示唆された。出身大学によりND教育にも差があると考えられ、医師となった後にもなるべく早い時期にNDに対する正しい知識を持つための教育機会を与えるべきであると思われた。

本研究の要旨は、第9回日本禁煙学会学術総会(2015年11月、熊本)にて発表した。

参考文献

- 1) 齋藤百枝美、渡邊真知子、渡部多真紀、ほか: 喫煙に対する薬学生の意識調査. 禁煙会誌 2010; 5: 158-164.
- 2) 日本医師会: 2012年日本医師会喫煙意識調査報告 http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20120829_3.pdf (閲覧日: 2015年10月6日).

Evaluation about social nicotine dependence of the residents of Nagasaki university hospital—comparison of the differences of their graduated school—

Makoto Imai¹, Tetsuya Kawano²

Abstract

Residents graduated from Nagasaki University marked significant lower score of KTSND than those who graduated from other universities. This study suggested that education about nicotine dependency during medical student days affects the social nicotine dependence in the future. Therefore, we should include the education about nicotine dependence in the education program of medical students.

Key words

residents, education about nicotine dependency, graduated school, Kano Test for Social Nicotine Dependence (KTSND)

¹Medical education development center, nagasaki university hospital, japan

²Smoking control center, nagasaki university hospital, japan